HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」
Citation	, 111, 1-15
Issue Date	2001-10-30
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/66374
Type	periodical
File Information	yuin111.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

ISSN 0917-3684

Hokkaido University Library Bulletin No.111 Nov. 2001

掾蔭

Yuin 北海道大学附属図書館報

目　次

ナップスター訴訟が投げかけているもの
　法学研究科教授　田村善之……1
北海道大学創基125周年記念事業
　・記念講演会～北海道地図の変遷～……3
　・特別展示会について……7
お知らせ
　・「札幌農学校文庫」等
　　目録データベース入力完了……9
　・「情報探索学入門」の講義を実施……10
　・医療短期大学で情報探索学入門を開催……11
北海道大学図書館講演会が開催されました……11
オンラインCD-ROMデータベース……12
コラム　明治21年の北講堂焼失と図書館……13
教官著作寄贈図書……14
会議……14
人事往来……15

ナップスター訴訟が投げかけているもの

法学研究科教授　田村　善之

インターネットを経由するだけで世界中のパソコンに保存されている音楽ファイルを自由に交換できるナップスターというサービスをめぐって，アメリカのレコード会社が「著作権で保護された楽曲が無断でやりとりされている」と訴えていた事件で，今春，アメリカ合衆国の裁判で，レコード会社勝訴の判決を下されました。

ナップスター訴訟が提起した問題は何かを考えてみましょう。

デジタル技術の進展は，夢のようなサービスを生み出すことがあり，ナップスターもその一つだといえます。ナップスター社のホームページにアクセスしてミュージックシェア・ソフト（ナップスター）をダウンロードすると，多数のユーザーが各自のパソコンに保存している音楽ファイル（MP3ファイル）を一覧することができ，これら自動交換用の音楽ファイルの中からほしい曲を検索し，自動的に取り込むことができます。

ただし，ここに一つの問題があります。自由交換用に保存されている音楽ファイルの大半は市販の楽曲ですから，音楽ファイルの無料交換が盛んになれば，CDの売り上げはかなり落ちる

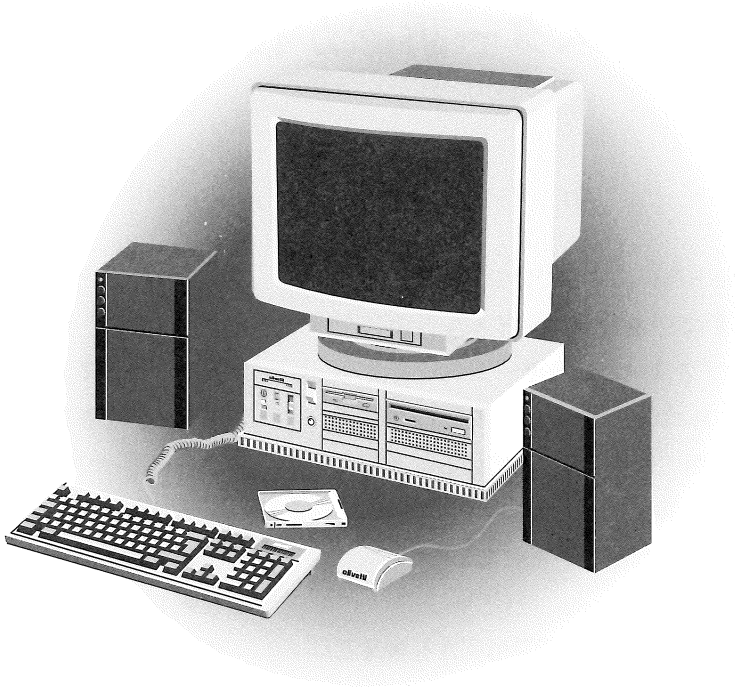
でしょう。1980年代初めの日本でレンタル・レコード店が流行ったとき，レコードの売上げが落ちたことによく似た現象です。

困るのはCDを発売しているレコード会社や，CDの売上枚数ごとに加算される印税収入が減少する作詩家，作曲家や歌手などです。音楽ファイルが無料で交換できることは，短期的にみれば，消費者にとっては利益となりますが，長期的にはどうでしょうか。収入が大幅に減少すれば，将来的には，作詩家，作曲家などになろうとする者はかなり減ってしまい，音楽ソフト自体が少なくなってしまうかもしれません。

解釈論としては，少なくとも日本の著作権法の下では，こういったソフトを用いてインターネットで音楽ファイルを交換するユーザーの行為自体が著作権侵害になることを否定するのは難しいと思われます。しかし，「あるべき法はどのようなものか」という立法論として考えれば，世界中のインターネット・ユーザーのパソコン間で音楽ファイルを共有できるのはすばらしいことで，それを可能とする音楽ファイルの交換をいたずらに違法視するのは，せっかく開発された技術を使えなくすることでしかあり得ません。

著作権法の究極的な目標が，著作物の創作活動を刺激することによって著作物の普及を促すところにあるのだとすれば，その目的を実現することができるように，技術や社会の環境の変化に合わせて，著作権法も変わっていかなければならないでしょう。たとえば音楽ファイルの交換は自由にできるとしつつ，それに応じた一定の対価が著作権者に環流するような技術的，法的仕組みを構築することが考えられます。

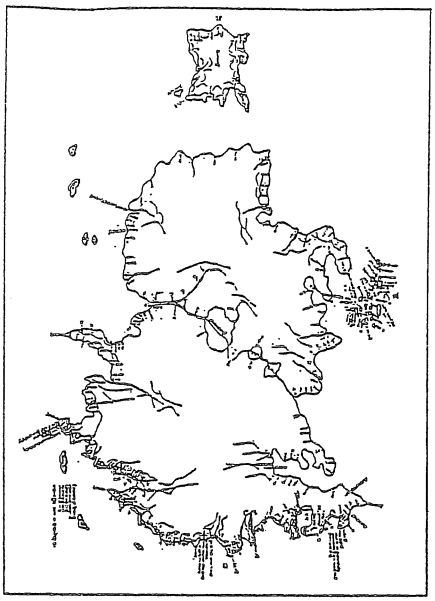
著作権の保護の度合いを決めるには，著作権者の利益と利用者の利益に配慮して，もっとも皆の利益となる解決策は何かということを模索することが大切です。そういう意味で，ナップスター社の提供するサービスに対する判断は，一つの試金石となるように思われます。



北海道地図の変遷
― 江戸初期から明治初年まで ―

高木　崇世芝

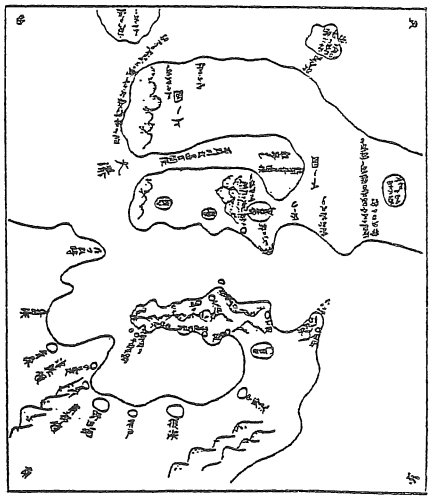
江戸時代初期から明治初年までの約280年間に作製された北方地図（ここでは，蝦夷地本島，カラフト島，千島列島の島々，および黒龍江からオホーツク沿岸，さらにカムチャツカ半島にいたるまでの各図）は膨大な数にのぼるであろう。江戸時代，江戸や上方に住む人々は遠い津軽の北端からさらに海を隔てた異域の「蝦夷地」に対して，どのような地理的認識をもっていたのであろうか。また，広大な原始林に覆われたこの地の地図は，どのような変遷を経て正確さを増していったのか。北方図の作製上で大きな節目となる時期を考慮して，ここでは三期に分けて，それぞれの時期の概略を記してみたいと思う。



元禄国絵図「松前島絵図」

初　期（正保期：1644～天明期：1788）
約140年間

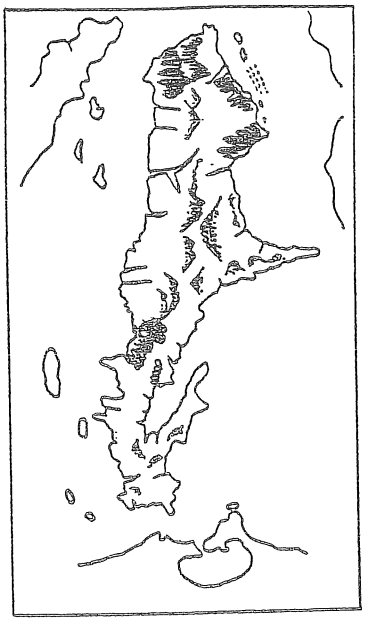
慶長4年（1599），初代松前藩主・慶広が，大坂城において徳川家康に謁見し，松前系譜と蝦夷島之図をご覧に入れる，と史書に見えるのが，蝦夷地図の記録に現れる最初である。以後，松前藩が蝦夷地全島の調査，地図作製，里程測量，さらにカラフト島の調査など，たびたび実施した記録はあるが，いずれも現存しない。江戸幕府は，慶長9年（1604：第1回），正保元年（1644：第2回），元禄10年（1697：第3回）の3度にわたって全国の大名に国絵図の作製提出を命じた。松前藩は正保，元禄の2度，北方図を作製して提出している。これが，現存最古の実地調査に基づく北方図である。松前藩提出の北方図（国絵図）は以後，転写され今に残っている写図が多い。寛文9年（1669）6月，東蝦夷地にシャクシャインの戦いが開始された。この戦いは3年余り続くことになるが，この時，津軽藩や南部藩によって作製または写されたと思われる地図があるがいずれも半島状の特異な地形をもつ蝦夷図である。これ以降，上方や江戸にも蝦夷地の様子が徐々に広まったようで木版の日本地図の中に初めて蝦夷地の南端部分が描写された。また，井原西鶴の『一目玉鉾』では，絵図と文章で蝦夷地を紹介している。さらに『和漢三才図会』という現在の百科事典にあたる書



シャクシャイン関係蝦夷図

物が発行され，蝦夷地図が掲載されるまでになった。

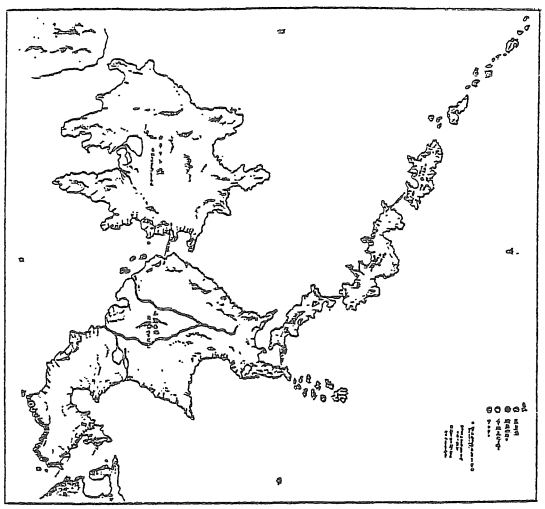
この後，天明期に至るほぼ100年間に作られた北方図は，「初期蝦夷図」と総称されるが，その大きな特徴は，蝦夷地の図形にある。すなわち，今日我々の認識する北海道の輪郭とは似ても似つかぬ輪郭をもつ図が多いのである。その一例をあげて見ると，南北に細長い島状の図，曲がりくねった半島や岬をもつ図，多くの島々を寄せ集めた図，石狩低地から二分される図，など実に様々な図形のものがある。また，もう一つ，特筆すべきは蝦夷地の周辺に想像上の島，すなわち現在から見ると架空の島々がいくつも描写されていることである。それらの島々には「小人島・大黒島・はだか島・女島」などと記されて，当時の一般の人々の地理的認識の一端を窺うことができるかも知れない。天明期に入って著名な人物の蝦夷図が出現する。一人は，仙台の海防学者・林子平であり，いま一人は備中の地理学者・古川古松軒である。林子平は長崎に遊学し，ヨーロッパの知識をも学んで有名な『三国通覧図説』を発行した。この書物の付図の１枚が「蝦夷図全図」であり，最初の木版蝦夷図であった。この図は，蝦夷地が南北に細長く，カラフト島は半島状，そして別に「サガリイン」という島も描写した。古川古松軒は幕府の東北・蝦夷地の巡見使一行に加わって松前に渡った。そして松前藩所蔵の蝦夷図を拝借して自ら蝦夷図を作製した。しかし，子平と古松軒の作製した蝦夷図はもはや最新の図とはいいがたいものであった。



蝦夷松前之図

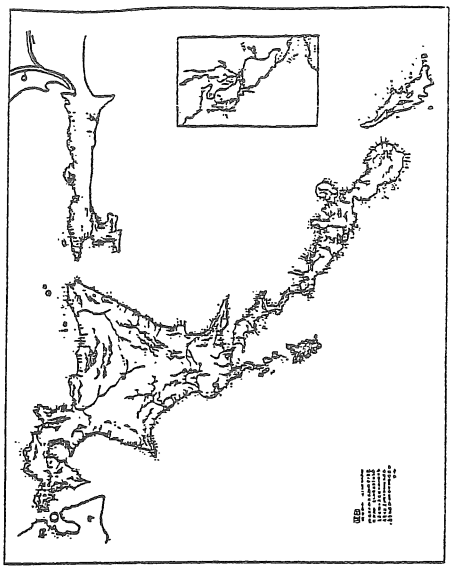
中　期（天明期：1781～天保期：1844）約60年間

18世紀後半，江戸幕府の財政はひっ迫状態にあった。そのような時期，幕府の中枢に登場したのが老中・田沼意次である。意次の重要政策は積極的な財政の建て直しであったがその一つとして計画されたのが，蝦夷地開発である。調査は意次の失脚によりわずか2年余りで中止となったが，この時作製された蝦夷図は従来の北方図を一新する見事な図である。それは，蝦夷地全体の輪郭が，初めて実形に近づき，千島列島も初めて一直線に並んだのである。以後，幕府は幕末に至るまで，幾度となく蝦夷地を中心に周辺の島々にも幕吏を派遣して探検，調査を実施することになった。享和元年(1801)，中村小市郎と高橋次太夫はカラフト島の探検を命じられ，東西に分かれて南部海岸を実地調査しその成果によってカラフト島図を作製した。その図は南部地方は見事なものであったが，北部は先住民の見聞のみに基づいたため，離島か半島かの判断がつかず，結局，両説を取り入れた図に仕上げている。近藤重蔵は，寛政10年（1798）以来，エトロフ島の開発や蝦夷地の内陸部を調査し，千島列島図・蝦夷図を作製したが，特に蝦夷図の地形は見事なものである。秦檍丸は幕府の雇いであったが，画家・測量師として技量を存分に発揮して，有名なアイヌ風俗画帳『蝦夷島奇観』を著し，文化5年（1808）には実測に基づく蝦夷図を作製している。また，同じ文化5年に松田伝十郎と間宮林蔵はカラフト島北部の探検に向かい，同島が海



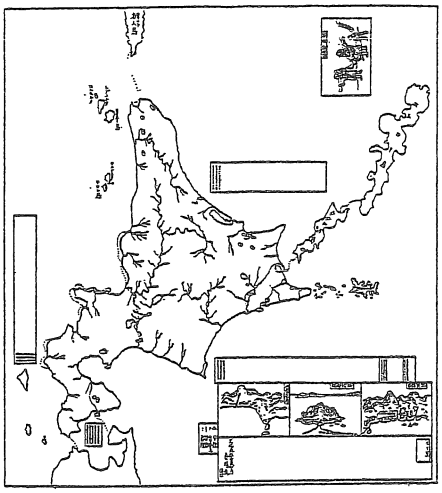
蝦夷地墨引絵図　１７８６年

峡によって隔てられた離島であることを確認した。翌6年，林蔵は単身で対岸の黒龍江沿岸に渡って満州仮府のあるデレンに到着し，ここでの交易の様子を詳細に調査して報告した。この探検結果によって作製されたカラフト島図は見事なものであり，海峡発見は広く欧州にまで知られることとなったのである。伊能忠敬の測量は，寛政12年（1800）の奥州街道と東蝦夷地の実測が最初であり，前後17年間におよぶ，全国の沿岸測量によって『大日本沿海興地全図』が完成したのは，文政4年（1821）であった。なお，忠敬の未測量だった西蝦夷地の測量は間宮林蔵によって行われ，この両名の実測によって，蝦夷地全体の輪郭が初めて科学的で正確なものとなった。天保年間に入ると，北方図作製の上で大きな出来事があった。そのひとつは，松前藩士で測量師であった今井八九郎が蝦夷地の全沿岸を実地測量して，その実測地図を作製したことである。八九郎は間宮林蔵から測量術を学んだといわれ，現存の地図はいずれも科学的で詳細なものである。

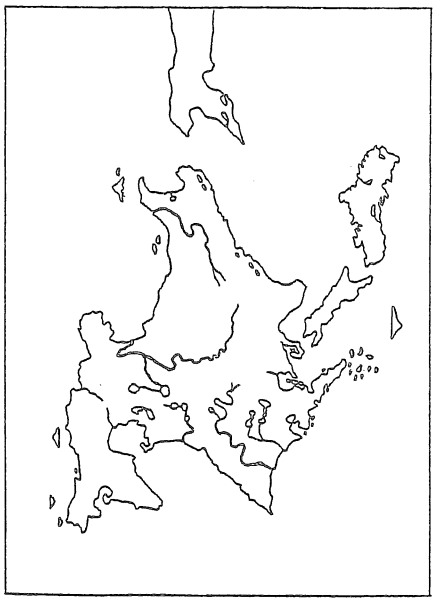


近藤重蔵「蝦夷地図」１８０２年

もう一つは，幕府が4度目の国絵図を全国の大名に命じて作製したことである。天保6年（1835）に命令を出し，同9年に完成した天保国絵図は，最後の国絵図であったがその全国の原本全てが現存している。松前藩が作製したこの国絵図を見ると縦6.7m，横5.5mの大きな彩色図で，地名も詳細であるが，輪郭は何故か当時としては歪んだ図形である。



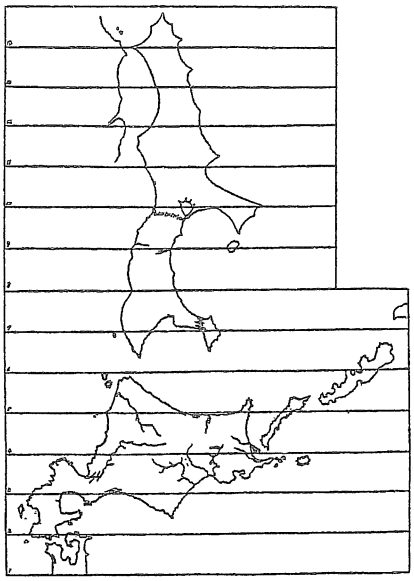
秦　檍丸「蝦夷島地図」１８０８年



天保国絵図「松前島図」１８３８年

後　期（弘化期：1844～明治10年頃：1877）約30年間

幕末になって北方図は大きな転換期を迎えた。それは幕末最大の北方探検家・松浦武四郎の蝦夷地探検が開始されたからである。伊勢国（現三重県）出身の武四郎は，若い時から諸国を遊歴し，長崎・平戸に滞在中に遠い蝦夷地の情勢を知るところとなり，一転して蝦夷地調査を志し，弘化2年（1845），ついに蝦夷地に渡海し東蝦夷地を探検した。以後，前後6回にわたって，カラフト島やクナシリ・エトロフ島までもその足跡を残し多くの報告書，書籍，地図などを著作した。武四郎が作製したり発行した北方図は8種におよび，



松浦武四郎「三航蝦夷全図」１８５４年

そのうち大図は３種類ある。その一つは嘉永７年（1854）に作製した『三航蝦夷全図』14枚組である。

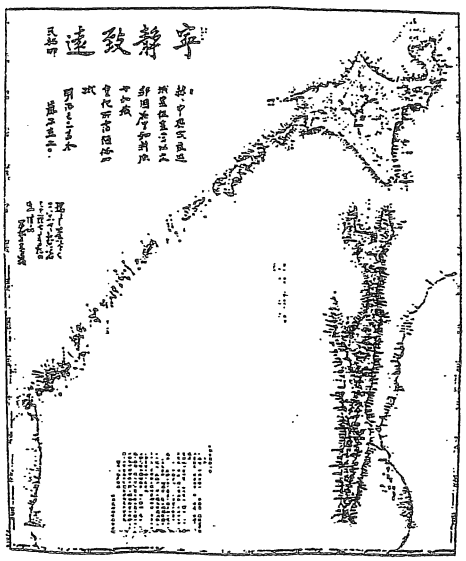
各種の地図や文献を参考にして仕上げられたが，蝦夷地は南北に扁平となり，カラフト島の北部は想像の域を出なかった。それから５年後の安政６年に発行された『東西蝦夷山川地理取調図』28枚組は前図を一新する見事なものとなった。まず蝦夷地の輪郭は，伊能忠敬の『大日本沿海興地全図』の中の蝦夷地部分の輪郭を借用し，内陸部は武四郎自身の調査によるデーターを駆使し、山地の表現には最新のケバ法を用いている。記された地名（山名・川名・湖沼名なども含む）も膨大な数である。さらに，翌７年には『北蝦夷山川地理取調図』19枚も作製したが，これは印刷されることなく終わった。

嘉永６年（1853）突如，ペリーの率いるアメリカ艦隊が浦賀に来航し，幕府に開国を要求した。翌年，日米和親条約が結ばれ，箱館の開港が決定した。ペリー自身の箱館来航，箱館奉行所の再設置，幕吏の蝦夷地・カラフト島の視察，ロシアとの国境交渉など北辺の動向が慌ただしく蝦夷地や箱館は一躍世間の注目を浴びることとなった。江戸では，続々と北方図・箱館図が発行され，さらに，それまで無かった蝦夷地を掲載する日本図も次々と発行され，まさに「蝦夷図ブーム」ともいうべき現象が起きたのである。嘉永６年から安政２年（1855）までに発行されたのは，北方図11点，箱館図１点，蝦夷地を掲載する日本図６点で僅か３年間に，なんと18点の北方関係図が発行されたのである。そして，幕府の終焉を迎える直前になって，幕府の洋学研究所である開成所が，伊能忠敬の『大日本沿海興地全図』の内の小図３枚を発行することになり，紆余曲折を経て４枚組として慶応元年（1865）に印刷発行した。この中に蝦夷地図とカラフト島図の２枚が含まれ，江戸時代の最後を飾るに相応しい北方図が出現したのである。

明治を迎えると，蝦夷地は北海道と改称され，開拓使によって新しい開拓が開始されることになった。それに伴って，当然ながら新しい北海道地図も必要であった。開拓使が発行した最初の北海道地図は，開拓判官として新政府に任官した松浦武四郎が明治２年（1869）に作製した『北海道国郡図』である。しかし，武四郎の地図は実地調査に基づくものではあったが，実測によるものでなく，科学的で正確な地図の作製が急務であった。

明治６年，アメリカのお雇外国人・ディーによって全道に三角測量が開始され，同８年に『北海道実測図』という初めての近代測量による北海道地図が発行されるにいたった。以後，近代測量は開拓使から北海道庁に引き継がれ，いっそう正確な各種の地図が作製・発行されていくようになるのである。

（北海道大学創基125周年記念事業の一つとして、平成13年９月25日、百年記念会館において開催された講演会の際、出席者に配付された資料を、講師の許可を得てここに再録させていただいた。）



松浦武四郎「北海道国郡図」１８６９年

北海道大学創基125周年記念事業特別展示会について

北海道大学創基125周年記念事業としての附属図書館の所蔵資料の特別展示は，9月25日（火）から10月5日（金）までの11日間にわたって開催され，好評のうちに終了した。

附属図書館では平成10年12月2日に開催された図書館委員会において，同委員会の下に館長，分館長，図書館委員3名と事務部長からなる『北海道大学創基125周年記念事業「図書館資料の特別展示公開」検討小委員会』を置くことを決定した。まもなく，館員によるWGも設置され，125周年にむけての特別展示公開について具体的な検討がはじめられた。

当初は図書館資料の将来にわたっての保存・公開のための施設の整備と，データベースを整備しネットワークを介して全国に公開するための方策が議論され，その結果，本年4月には札幌農学校を代表する著名な卒業生の個人文庫や札幌農学校旧蔵文庫等を収蔵する貴重資料室と本学沿革資料展示室の整備・改修が実現した。また，貴重資料のデータベース入力もこの9月までに終了している。

小委員会の後半は125周年記念特別展示計画について検討され，第3回小委員会からは文学研究科の橋本雄一助教授にも参加いただき，古地図の電子展示についても同時に考えられた。その結果，以下のような展示計画が作成された。

1．コンセプト

本学附属図書館が所蔵する資料のうち，札幌農学校沿革資料をはじめ写真や古地図・図類，貴重資料等を学内はもとより一般にも展示・公開する。これらの展示を観覧することにより，本学の125年を回顧するとともに将来に向かって飛躍するための縁とする。

2．展示期間

展示の期間は125周年記念式典等の日程にあわせた10日間程度（土・日曜日を含める）とする。

3．展示テーマ

イ）北海道大学の125年（沿革資料・写真展）：ロビー，4階沿革資料展示室

本学の創設期にあたる開拓使仮学校から創基120周年までの歩みを，関係資料と写真パネルにより概観できるものとする。

ロ）北方古地図展－蝦夷地から北海道へ－：4階大会議室

本学が誇る附属図書館北方資料室の優れたコレクションである古地図及び図類を展示・公開することにより，北方図作製の歴史を概観できるものとする。

ハ）北辺探検と蝦夷地－北方資料展－：4階中会議室

幕末の蝦夷地を目指した人々の著作等を展示することにより，同時に開催する北方古地図展の理解を助けるものとする。

4．その他

北方古地図及び展示会カタログを附属図書館ホームページで公開する。

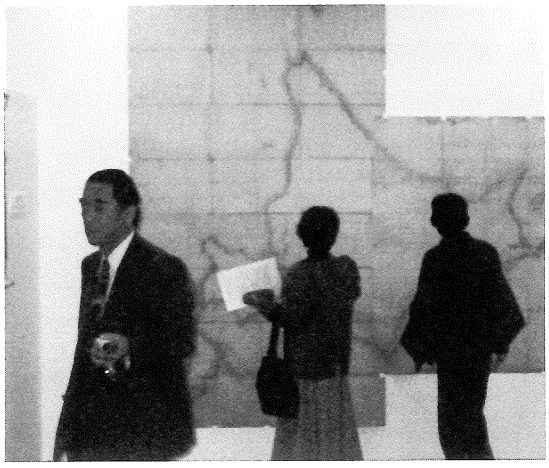
附属図書館としてははじめてポスターを作製して，札幌近郊の高等学校をはじめ大学や公共図書館，博物館などに配付すると同時に，各展示会のカタログと絵葉書１種（林子平の「三国通覧輿地路程全図」）を作製して来館者への配付用に用意した。

北方古地図展については電子展示も可能とし，18点の古地図について高精細画像がプラグイン版などから検索できるようにした。これらの電子展示とカタログは，展示会終了後も附属図書館のホームページをとおして学外からもアクセスすることができるようにしてある。

展示会の初日にあたる９月25日には，中村総長のご臨席のもとに特別展示会のオープンセレモニーを挙行し，午後には百年記念会館大会議室において，高木崇世芝氏による「北海道地図の変遷－江戸初期から明治初年まで－」と題した特別講演会も開催された。

おりから，新聞やテレビの取材を受けることとなり，北方古地図展の来場者は2,300人に達し，三つの展示会をあわせると期間中の来場者は5,400人余にのぼった。土曜・日曜日には児童や生徒が父母と一緒に会場にみえ，地図の形や大きさ，時代ごとの変化などを比べながら真剣に展示を見ていた。また，会場に何度もお見えになる年輩の方もいらっしゃった。来場した人達は一様に以下のような感想をもらしていて，今回の特別展はたいへん盛会であったことがうかがわれた。

・60年程前に北大に勤めていたので，総長の写真とか懐かしかった！
・すべてじっくり見たので疲れました。
・素晴らしい，こんな貴重なものを間近で見られるとは，ありがとうございました。
・すごいものを見せていただいた。学外からも電子展示にアクセスしたい。
・地図のデジタル画像も良かったです。
・東京から来ました。130周年のとき又来ます。



北大創基125周年記念事業

「札幌農学校文庫」等目録データベース入力完了！

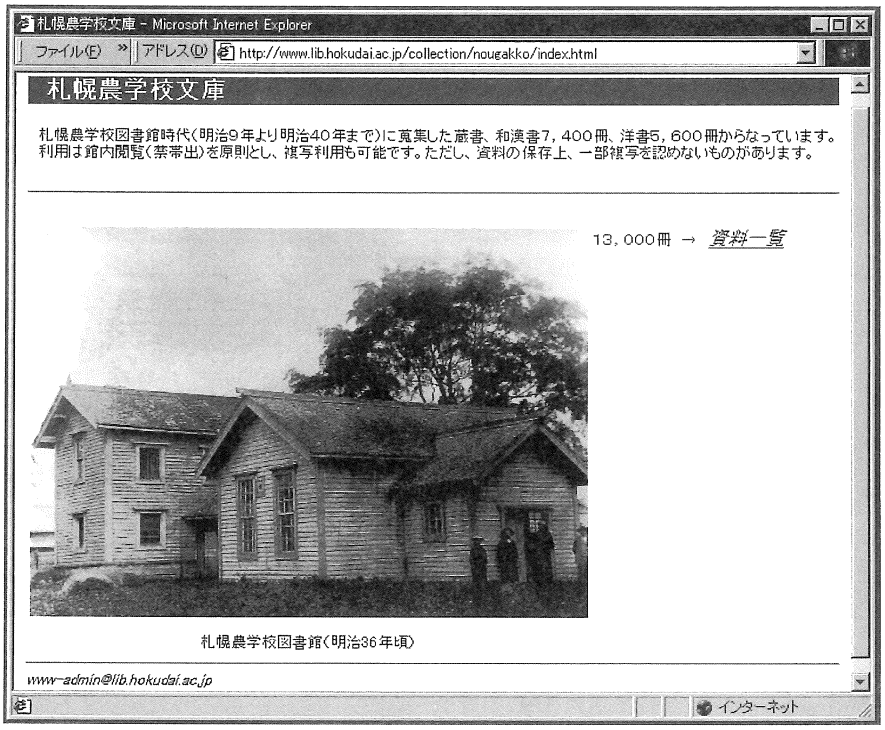
附属図書館では北海道大学創基125周年記念事業「学内の歴史的資料の整備」の一環として，平成11年10月より札幌農学校文庫，内村鑑三・新渡戸稲造等個人文庫，沿革資料など本学縁の資料のデータベース化に取り組んできました。

4名の入力班により開始されたデータ入力作業は，楡蔭No.108（2000．12）でご紹介の通り順調に進み，このたび札幌農学校文庫の入力終了をもって無事完了しました。札幌農学校文庫等の書誌・所蔵データが全国総合目録データベースおよび北大蔵書検索（OPAC）に入力済みとなっており，全国・全学に公開され利用されております。また，附属図書館のホームページ「コレクション紹介」では，各文庫の紹介や資料一覧リストも掲載しております。

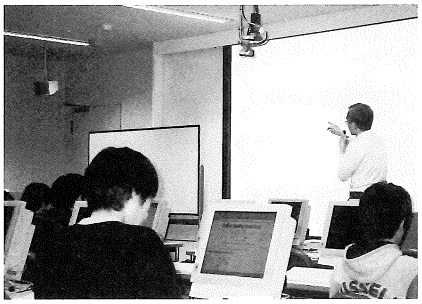
これらの資料は，この125周年記念事業により新たに保存環境が整備された本館4階の貴重資料室に配架されております。利用については，4階参考調査掛へお申し出ください。

札幌農学校図書館は，明治9年（1876）の札幌農学校創立時から，明治40年（1907）に農学校の大学昇格に伴って東北帝国大学農科大学図書館と改称されるまでの30年間に渡り，大先達の勉学・研究の場でありました。その蔵書「札幌農学校文庫」は創立時の「書籍室」の洋書1,787冊，和漢書4,362冊に年々新規受入図書が加わり，現在の入力済冊数は，洋書5,630冊，和漢書7,410冊となっております。

なお，札幌農学校文庫をはじめとする125周年記念事業全体での入力冊数は，洋書11,901冊，和漢書16,390冊にのぼりました。ここに，今回の入力事業および貴重資料室の整備等に関して全学各方面からいただいたご理解・ご支援にたいして，心からお礼申し上げます。



一般教育演習で「情報探索入門」の講義を実施中



附属図書館では平成13年度より「一般教育演習」の枠内に「情報探索入門」の時間（90分）を新たに設け，図書館職員及びTAによる教育支援を行なうことになりました。今年度は一般教育演習担当教官から希望をとった結果，前期26件，後期13件の申し込みがあり，情報教育館実習室で下記のとおり実施されています。

現時点で後期授業が進行中ですので，結果については終了後報告致します。

講　議　日　程

月	日	曜	講目	教　官　名	人数	所属	講　義　名
4月	24	火	5	山岸　みどり	20	高	異文化と自文化の見方を考える
	27	金	2	鈴　木　　誠	25	高	「蛙学」への招待
5月	7	月	5	笹賀　一郎	25	演	森林と環境保全
	8	火	5	結城　雅樹	25	文	集団の中のこころ－社会心理学の視点から
	9	水	5	島津　洋一郎	20	工	原子力とハイテクノロジー
	11	金	2	菱谷　普介	20	文	想像と創造
	14	月	5	鈴　木　　賢	25	法	中国と台湾の国家と社会
	15	火	5	高橋　孝行	20	理	21世紀の生物科学に備えて
	16	水	5	櫻井　恒太郎	25	医	情報管理学
	18	金	4	菱沼　孝夫	25	工	エネルギー・環境と経済
	21	月	5	山崎　忠良	25	獣	化学反応はなぜおこるか
	22	火	5	在田　一則	19	理	ヒマラヤ・チベットの形成とその影響
	23	水	5	小杉　　康	25	文	考古学入門
	25	金	2	棟方　正信	25	工	バイオテクノロジーの展開
	28	月	5	塩崎　洋一	21	非	結晶学
	29	火	5	小泉　　格	21	理	地球環境問題の背景
	30	水	5	古矢　　旬	20	法	西洋政治思想史の重要問題
6月	1	金	5	高桑　哲男	25	工	都市の水環境づくり
	5	火	5	和田　充雄	25	工	人・コンピュータ・ロボットとこれからの社会
	6	水	5	辻　　孝	25	理	基礎有機化学演習
	12	火	5	三田村　好矩	25	工	臓器置換
	13	水	5	落合　　廣	25	理	Essential Cell Biologyを読む
	15	金	4	伊福部　達	25	電	福祉を支える科学技術
	26	火	5	上田　哲男	25	電	細胞にインテリジェンスがあるか？
	27	水	5	灰谷　慶三	20	非	東ヨーロッパの社会と文化
7月	11	水	5	久保川　厚	25	地	海と空の流れの科学
10月	15	月	5	寺谷　広司	7	法	国際法学における社会契約説
	17	水	5	中川　　明	25	法	21世紀の司法
	18	木	5	猪上　徳雄	20	水	地球市民は悩める地球を救える賢人集団となれるか
	19	金	5	小柴　正則	22	工	21世紀の情報通信
	22	月	5	斎藤　　睦	9	理	多項式を巡る数学
	24	水	5	柏柳　　誠	20	薬	五感を科学する
	26	金	2	山中　智之	25	言	最新ドイツ語圏事情
	29	月	5	平沖　敏文	2	工	現代科学への招待
	31	水	5	坂本　雄児	18	工	IT革命と社会への影響
11月	5	月	5	中村　貴義	7	電	分子エレクトロニクス
	7	水	5	工藤　　勲	20	工	基礎宇宙工学演習
	14	水	5	鈴木　志のぶ	20	言	人間のコミュニュケーションを考える
12月	7	金	2	大西　利只	25	工	超伝導の魅力とそのパワー応用最前線

医短で新１年生にオリエンテーションと検索ガイダンス

医短の新１年生に「早期臨床体験実習」が行われた７月24－25日の両日，情報教育の一環として１年生200名を２日に分け，100名づつ50分間の「図書室オリエンテーションと北大蔵書検索ガイダンス」を図書職員２名で行いました。場所は301講義室で後半の北大蔵書検索では，附属図書館が作成した「情報探索入門」のパワーポイントを使用し説明を行いました。

また卒業研究をひかえた最終学年の学生に，教官からの依頼に応じて図書室の詳しい使い方と「医学中央雑誌」「MEDLINE」「CINAHL」「北大蔵書検索」などの検索ガイダンスと実習を90分間かけて図書室の端末を使用し行っています。（今年度は４月13日に助産専攻科10名（北大医短卒業生を除く），７月17日と19日作業療法学科各10名の合計30名）

北海道大学附属図書館講演会が開催されました

平成13年10月18日（木）本学百年記念会館大会議室において，道内国公私立大学等の図書館職員を対象とした，北海道大学図書館講演会が開催されました。

国立情報学研究所教授内藤衛亮氏による「情報流通の国際化と大学図書館」，山形県立県立米沢女子短期大学助教授佐藤義則氏による「大学図書館とサービス評価」の講演があり，道内の国公私立大学，高等専門学校及び本学図書館職員から約60名の参加がありました。

オンラインCD-ROMデータベース (平成12年度実績)

MED＝MEDLINE，BA＝BAonCD，CC＝Current Contents，CA＝CAonCD，PSY＝PsycLIT
医中誌＝医学中央雑誌，MLA＝MLA International Bibliography，BRD＝Book Review Digest

ユーザ数

利用者部局	MED(1991)	BA(1992)	CC(1993)	CA(1996)	PSYC(1997)	医中誌(1997)	MLA(1998)	BRD(1998)	計
附属図書館	4	4	4	4	4	4	3	3	30
文学部	2	4	5	1	17		5	7	41
教育学部	6	1	4		5	3			19
理学部	18	8	21	12		3		2	64
医学部	45	7	24	3	1	23			103
医学部附属病院	8	1	2			7			18
歯学部	18	4	9	1		12			44
歯学部附属病院	1			1		2			4
薬学部	10	1	10	3		1			25
工学部	5	4	18	16	1	1			45
農学部	14	20	24	5	1				64
農学部附属牧場	1	1	1						3
農学部附属農場		1							1
農学部附属演習林		2							2
獣医学部	17	5	16	1		2			41
水産学部	7	17	14	5					43
言語文化部							1	1	2
地球環境科学研究科	7	11	11	7					36
低温科学研究所	3	5	6	4					18
電子科学研究所	6	2	6	4	1	2			21
遺伝子病制御研究所	6	1	5			2			14
触媒化学研究センター			6	7					13
スラブ研究センター							1		1
実験生物センター	1	1	1						3
エネルギー先端工学研究センター			1	1					2
先端科学技術共同研究センター	1		1						2
保健管理センター	1					1			2
医療技術短期大学部	14		4	1	3	17	1		40
計	195	100	193	76	33	80	11	13	701

カッコ内は導入年。

利用回数

年	月	MED	BA	CC	CA	PSY	医中誌	MLA	BRD	合計
2000	4	2,559	1,350	2,230	1,618	298	1,471	44	29	9,599
2000	5	2,691	1,216	2,722	1,887	182	1,449	48	16	10,211
2000	6	2,499	1,378	2,727	4,752	215	3,268	92	68	14,999
2000	7	1,924	1,020	1,723	1,853	180	1,418	65	49	8,232
2000	8	1,657	977	1,757	2,017	203	1,131	48	13	7,803
2000	9	1,816	1,213	2,338	1,811	184	1,336	33	6	8,737
2000	10	1,961	1,476	2,965	1,899	275	1,486	39	10	10,111
2000	11	1,991	1,349	2,362	1,990	259	1,463	35	6	9,455
2000	12	1,696	1,220	1,666	2,000	208	1,237	30	7	8,064
2001	1	1,646	1,366	2,116	2,582	151	1,301	48	12	9,222
2001	2	1,604	1,073	1,680	2,562	170	1,162	24	11	8,286
2001	3	1,248	662	1,508	2,366	225	1,282	17	6	7,314
合計		23,292	14,300	25,794	27,337	2,550	18,004	523	233	112,03

明治21年の北講堂焼失と図書館

明治初期の函館における図書館活動を調査するため，当時の新聞を検索するという作業の中で，明治21年5月22日付の函館新聞に「札幌農学校出火の詳報」という記事をみつけたので紹介したい。これは『北大百年史』の年表によれば，明治21年5月，北講堂焼失と記されているものである。念のため札幌で発刊された「北海道毎日新聞」も検索してみたところ，5月17日付で，先の函館新聞の四分の一ほどのスペースでごく簡単に報じられていた。地元の新聞よりも函館の新聞に大きく報じられていることに奇異な感じがする。

ところで，北講堂の焼失は農学校図書館にとっても大変重要な事件であった。それは北講堂の1階に読書室が置かれていたこと。もう一つは北講堂のすぐ南側，演武場との間に，クラークが防湿対策や採光の面で不満をもらしたという木造柾葺二階建ての書籍庫（書庫）があり，しかも北講堂とは30メートルも離れていなかったため類焼のおそれがあったからである。

5月15日の深夜，0時5分頃，札幌農学校北講堂の東側にあった物置から出火，生徒溜り，教育室へ燃えひろがり，ついには北講堂を焼きつくし，午前1時30分頃にやっと鎮火した。この夜は東南の風が強く，講堂の北西にあった観象台と南東にあった書籍庫にも燃え移りそうな勢いであったという。幸い，他の建物に延焼することはなく北講堂のみの焼失で済み，農学校や師範学校の生徒の活躍により書籍庫の図書や北講堂にあった授業用の器機の多くは運び出され無事であったが，新聞は次のように報じている。

> 「書籍庫は別手組観象台は三番組の消防組にて防き止めたり尤も書籍庫は最も危かりしを以て入口の戸を打破り和漢洋の諸書籍大概は佗へ運び移したり　――略――　又此の時の働人は仝校生徒及師範学校生徒凡百五十名其佗手伝人消防夫等必死の働きにて書籍庫は各窓より書籍の雨をなし講堂は各窓よりは椅子テーブルの矢をつく如く抛出し夫れ等を搬ぶもの〻右往左往に駈廻り其勇敷こと譬へんことなかりき　以下略

その後，北講堂は翌明治22年の春（5月落成予定）までに再建されることになり，10月初めには総工費4,814円23銭4厘で小宮與吉に工事の請負が命じられた。そして，11月末までには建物の外観工事は出来上がったようである。明治21年11月17日付の北海道毎日新聞には「予て新築に着手中なる農学校の講堂は工事意外に捗取り本月中には外部の大体は出来上り雪中には内廻りの造作に取掛る手都合に運びしかば来る廿二年三月頃迄には悉皆落成に至るへしとの事なり」と報じている。

11月末には札幌もいよいよ雪の時期を迎えることになる。だが，その後の新聞には北講堂の落成の報をみるこはできなかった。

(Fu)

教官著作寄贈図書

2001.7.1～2001.10.31

[本　館]

(文学部)

加藤　博文ほか著	マンモスハンター，シベリアからの旅立ち	日本放送出版協会	2001

(法学部)

中川　明編著	宗教と子どもたち	明石書店	2001

[北分館]

(言語文化部)

高橋　宣勝著	霊異世界的訪客	旗品文化出版社	2001

ご恵贈誠にありがとうございました。今後とも図書館資料の充実のため，皆様のご協力をお願いいたします。

会議 (13.7.1～13.10.31)

【学　内】

◎図書館委員会

○第185回〈7月12日（木)〉

議　題

1　平成12年度決算及び平成13年度予算について
2　平成13年度附属図書館事業計画の改正について
3　学術研究コンテンツの整備に関する検討小委員会の設置について
4　祝日開館の試行について
5　本館開架閲覧室の夏季臨時休室について
6　その他

報告事項

1　北海道大学創基125周年記念図書館資料特別展示について
2　情報基盤センター（仮称）検討ワーキンググループについて
3　教育研究基盤校費及び間接経費について
4　第48回国立大学図書館協議会総会について
5　資料整備に関する懇話会理系部会・医系部会合同会議（6月20日開催）について
6　その他

◎北分館委員会

○第134回〈7月19日（木)〉

議　題

1　平成13年度北分館図書費予算（案）について

2　その他

報告事項

1　平成13年度北分館事業計画（案）について

2　祝日開館の試行について

3　北分館臨時休館について

4　北分館オープンユニバーシティについて

5　雑誌記事索引データベースの開始について

6　学生用図書費（新規）の「境界領域・基本的叢書・講座」について

7　その他

◎学術研究コンテンツの整備に関する検討小委員会

○第1回〈 7月17日（火)〉

○第2回〈 8月28日（火)〉

○第3回〈10月 3日（水)〉

○第4回〈10月15日（月)〉

○第5回〈10月22日（月)〉

【学　外】

◎第34回国立七大学附属図書館部課長会議〈10月4日（木)〉(北海道大学)

◎第75次国立七大学附属図書館協議会〈10月5日（金)〉(北海道大学)

◎北海道地区大学図書館協議会

○第3回幹事館会議〈8月30日（木)〉(釧路公立大学)

○第51回総会〈8月31日（金)〉(釧路公立大学)

○第44回図書館職員研究集会企画委員会（北海道大学)

第3回〈7月18日（水)〉，第4回〈10月17日（水)〉

◎国立大学図書館協議会

○常務理事会〈10月24日（水)〉(大阪大学)

○理事会〈10月25日（木)〉(大阪大学)

人事往来

【平成13年8月31日付け異動】

〔辞職〕

佐　藤　真紀子　　工学研究科・工学部総務課図書整理掛

北海道大学附属図書館報「楡蔭」(ゆいん)　**第111号**　平成13年11月30日発行

〈編　集〉「楡蔭」編集委員会

〈発　行〉北海道大学附属図書館　〒060-0808　札幌市北区北8条西5丁目
TEL：011-706-2967　FAX：011-747-2855
ホームページ　http://www.lib.hokudai.ac.jp